

令和 4 年 6 月 21 日現在

機関番号：34404

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2021

課題番号：19K01823

研究課題名（和文）専門職の職業コミットメントとコンプライアンス行動に関する実証研究

研究課題名（英文）An Empirical Study on Occupational Commitment and Compliance Behavior of Professionals

研究代表者

本間 利通（Homma, Toshimichi）

大阪経済大学・経営学部・教授

研究者番号：90461128

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、薬剤師を対象として行ったアンケート調査及びヒアリング調査に基づいて、コンプライアンス行動のモデル化を検討した。職業・組織に対する関わり方を、それぞれ職業コミットメント・組織コミットメントとして測定して、コンプライアンス行動に与える影響を確認した。職業コミットメントを情緒的・存続的・規範的の3つの要素から測定した。その結果、情緒的職業コミットメントが組織行動に与える影響を示すことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は専門職として薬剤師を調査対象にアンケート調査及びヒアリング調査を行なった。職業に対する関わり方は専門職だけが持つものではないために、他の職種にも応用可能である。特に専門職志向が強い職業に応用できる。情緒的な職業に対する関わり方が持つ影響の大きさは、専門職以外が関わるコンプライアンス問題のモデル化にも応用可能な知見となる。職業に対する情緒的な関わり方が特定のコンプライアンス行動に影響を持つとする知見は、組織のコンプライアンス施策に貢献することができる。

研究成果の概要（英文）：This study examined the modeling of compliance behavior based on questionnaires and interviews with pharmacists. We evaluated the impact on compliance-related behavior by measuring the commitment to the profession as occupational commitment and the involvement in the organization as organizational commitment. An occupational commitment was measured in terms of three components: affective, continuance, and normative. We were able to show the impact of affective occupational commitment on organizational behavior.

研究分野：経営学

キーワード：職業コミットメント 組織コミットメント コンプライアンス 専門職

1. 研究開始当初の背景

職業に対する関わり方と組織に対する関わり方の間で起きる役割コンフリクトは、プロフェッショナルとしての価値観と組織からのビジネス上の要請との2つの価値観の間で起きる問題であり、組織行動論の観点から検討が重ねられてきた。役割コンフリクトは組織コミットメントの先行要因として捉えられてきた。組織コミットメントは組織に対する心理的な態度を示す変数であり、組織行動との関係に着目した研究の蓄積がこれまでに行われてきた(Meyer & Allen, 1997)。主に離職や無断欠勤などの役割内行動(In-role behavior)としての組織行動が対象とされてきたが、組織市民行動や内部通報行動(Whistle-blowing)など役割外行動(Extra-role behavior)として分類される組織行動へと研究対象が広がられてきた。

本研究は、組織コミットメントと組織行動との関係を明らかにする上で、役割外行動に分類される不正防止のためのコンプライアンス行動との関係について焦点を当てたものである。組織コミットメントはAllen & Meyer(1990)による3要素モデルによって概念の精緻化がされてきたが、コミットメントの対象を職業に応用させた職業コミットメントも組織コミットメント同様に、組織行動に固有の影響を持つ概念と評価できる。職業および組織コミットメントの高さが先述の役割コンフリクトを起こすとの想定がされてきたが、組織行動として離職との関係に大きな焦点が当てられてきた。すなわち、役割コンフリクトが離職につながるとの想定である。そのために、役割コンフリクトと役割外行動に関する実証研究は相対的に少ない。特に、コンプライアンス行動に関する研究は、現在まで体系的な理解は得られていないままである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、専門職の職業に対する関わり方および組織に対する関わり方の強さがコンプライアンス行動に与える影響の検証を通じて、組織が行なう施策設計に貢献することである。本研究は、専門職のコンプライアンス行動の促進要因を、職業コミットメントと組織コミットメントの関係から明らかにするものである。従来的には、組織コミットメントと職業コミットメントの高さは役割コンフリクトを引き起こすとの想定がされてきた。組織の価値観あるいはビジネス上の要請と専門職としての価値観との間でコンフリクトが起きることが想定されてきた。組織コミットメントが高い組織成員は、組織の価値観やビジネス上の要請を優先することになり、職業コミットメントが高い組織成員は専門職としての価値観を優先することになる。両方もが高いと、個人内でコンフリクトが起きることが想定されてきた。コンプライアンス行動は、こうした役割コンフリクトを引き起こしかねない組織行動であるが、どのような職業および組織への関わり方がコンプライアンス行動を促進あるいは阻害するのかについては体系的な理解は得られていない。そこで本研究は、職業コミットメントおよび組織コミットメントを測定して、それぞれのコミットメントが不正防止のためのコンプライアンス行動に与える効果の検証を通じて、意思決定プロセスのモデル化を行う。本研究は、コンプライアンス行動を個人の一般的な道徳認識や専門知識の有無で説明するよりも、組織と個人との関係を考慮に入れた上で意思決定プロセスのモデル化をすることが、よりよい制度設計への大きな貢献となると想定する。一級建築士による耐震偽装や公認会計士による不適切会計は、専門家によるコンプライアンス行動を引き出すことができなかったために顕在化したと解釈できる。品質管理に関する不正も専門職のコンプライアンス行動を促すことができていないことを意味している。こうした問題は、組織の制度に課題を抱えていることを意味している。そこで本研究では、不正を個人の一般的道徳の問題として捉えられるのではなく、組織行動の観点から分析する。例えば公認会計士が不適切な会計を見逃してしまう問題や、税理士の通報義務に関する認識、薬剤師による疑義照会などについて、職業および組織に対する関わり方を見ることで、どのような関わり方がどのような行動を促進するのかについて意思決定プロセスについて理解を得ることができる。この枠組みは専門職以外にも対象を広げることができるために、意義のある貢献となる。

3. 研究の方法

薬剤師を対象として行ったアンケート調査及びヒアリング調査に基づいて、コンプライアンス行動のモデル化を検討した。職業コミットメントと組織コミットメントについて、両者を量的・質的に評価した。コンプライアンスは法令遵守以外も含める広い概念として捉えて、コミットメントが持つ影響を評価した。2019年と2020年にアンケート調査を行い、薬剤師向けの職業および組織コミットメントを適切に評価するために、ヒアリング調査を適宜行いながら尺度の改善を検討した。コミットメントは情緒・存続・規範の3要素から構成されるとする3要素モデルに基づき、職業および組織コミットメントを測定した。

4. 研究成果

2021年11月に薬剤師を対象としたアンケート調査を行なった。薬剤師の組織コミットメント及び職業コミットメントを3要素モデルに基づき測定したところ、組織コミットメントの存続的要素の信頼性について課題が残った。ヒアリング調査を行ないその他の要素について質的な

データを収集した。職業コミットメントは適切に測定できていると評価した。組織が行なう専門職の人的資源管理施策設計において、コミットメントを検討することの意義を確認した。

薬剤師のジョブ・クラフティングを測定した結果、情緒的職業コミットメントはジョブ・クラフティングの要素のうち 2 要素と相関があり、存続的職業コミットメントは有意な相関を持つものはないことを示した。薬剤師のジョブ・クラフティングを測定した結果は「薬剤師版ジョブ・クラフティング尺度の予備的検討」として『医療経営学会誌』15(19), 31-16.に掲載された。

かかりつけ薬剤師業務について行ったヒアリングとアンケートの結果は、薬剤師業務が「物から人へ」の流れにある中で、「物」に関する認識と「人」に関する認識は、それぞれが異なる因子として分けることができた。因子分析とヒアリング調査の結果は、「薬剤師のかかりつけ制度認識の構造」として『組織学会大会論文集』10(1), 124-129.に掲載された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 本間利通、上野透	4. 巻 2020-4
2. 論文標題 企業不祥事に関する予備的考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Osaka University of Economics Working Paper Series	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 本間利通、串田ゆか	4. 巻 2019-2
2. 論文標題 薬剤師の組織コミットメントと職業コミットメント	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Osaka University of Economics Working Paper Series	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 串田 ゆか、本間 利通	4. 巻 15
2. 論文標題 薬剤師版ジョブ・クラフティング尺度の予備的検討：薬剤師の自発的職務再設計行動の分析に向けて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本医療経営学会誌	6. 最初と最後の頁 31～36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11202/jaha.15.31	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 串田 ゆか、本間 利通	4. 巻 10
2. 論文標題 薬剤師のかかりつけ制度認識の構造	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 組織学会大会論文集	6. 最初と最後の頁 124～129
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11207/taaos.10.1_124	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Toshimichi Homma
2. 発表標題 Organizational and occupational commitment: Managing pharmacists
3. 学会等名 The 16th HERI-ISBR Joint Symposium (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上野透・本間利通
2. 発表標題 企業不祥事と内部通報
3. 学会等名 経営哲学学会第38回全国大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	若林 直樹 (Wakabayashi Naoki) (80242155)	京都大学・経営管理研究部・教授 (14301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------